

謹賀新年



発行
天理教本愛大教会

〒453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL (052) 461-4326
FAX (052) 461-4320
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

春季大祭執行

1月13日
午前10時

本愛大教会

立教182年

立教182年 年頭あいさつ

本愛大教会長 安藤正治

新年明けましておめでとうございます。旧年中は本愛大教会の動きのなかでお力添えを頂きまして、誠に有難うございました。

昨年は、「かしもの・かりものの理を治め、ご恩報じを実践しよう」という活動目標のもと、親神様・教祖にお喜びいただこうと共々努力させていただきました。

今年はより強くご恩報じを心に掛けて、特に「初参拝」の推進と新ようぼく育成を柱にした活動を展開させていただきたく存じます。

平成の年号の年も今年最後となり、新しい時代を迎えようとしています。大教会もそれに相応しく新しい動きを進めていく所存です。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



こども食堂では炊事係や婦人会の協力のもと、メニューにも毎回工夫が凝らされている

特別ルポ企画

“未来への伝道”に心尽くして

本愛の歴史に見る「丹精の伝統」と新たな挑戦

大教会では昨年、道の後継者育成を目的に新たな試みが続々とスタートした。そこには若年層育成に心血を注がれた初代会長様の思いが息づいていた。

「こんばんは!」「また来たよー!」

12月17日午後5時。寒空のなか、大教会に子供たちが続々と集まってきた。友達と連れ立って来る子、大教会を待ち合わせ場所になっている子。皆ワクワクした面持ちで華洲館へと入っていく。

この日は月に1度

の「ほんあいこども食堂MOGUGU」の日。参加する子は、これまで一度も大教会を訪れたことのなかった地域の子供たちばかりだ。揚げたてのからあげやサラダの前に、あちこちで元気な「いただきます!」の声が上がった。

こども食堂は、近年急速に広まっている地域支援事業の一つ。共働き世帯の子供や、満足な食事が取れない子に、温かい食事を提供するのを目的として全国で草の根的に広まっている活動だ。

本愛大教会では、昨年4月に主要三会や構内部の主体となった人を中心に「運営委

員会」を発足。青年会が主体となり、これまでに9回実施。延べ300人以上がこども食堂に足を運んだ。

大教会が位置する日吉学区で、区政協力委員協議会副議長を務める後藤弘康・

学区長は「学区でも一人でコンビニで夕飯を買っている子供を見かける。こども食堂をすぐにでも始めたかったが、実現は難しいと思っていた。天理教さんがやってくださると聞いて、本当に嬉しかった」と話す。

4月の初開催では、スタッフを除けば15人ほどの参加者だったが、現在では50人ほどに増えた。多くが、チラシや通学路のポスターを見た保護者や子供たちだ。

「天理教のことはよく知らないし、中に入ったこともなかった。だけど子供がきたら聞いて聞かなくて」この日、家族で参加したある男性は、そう話した。

現在では、名古屋市子ども青少年局や中村区社会福祉協議会との連携も深まりつつある。見学に来たある担当者も、「住民の中には宗教団体という点に不安を感じる方もいらっしゃるかもしれない。けれど、運営に当たる皆さんの温かい雰囲気は、信仰のある方々だからこそだと思う。行政としても今後繋がりを深めさせてもらいたい」と語った。

多方面での広がりも。スタッフの一人、細田美裕さん(大学4年)は、全くの未信仰ながら、フェイスブックの情報などを見て、運営の手伝いを申し出た。初めて聞くお道の教えに熱心に傾きながら、細田さんは毎回、食事の準備などに汗を流している。

支教会陸級よりも早くこうした子供たちの支援・育成は、本愛の道の中では決して目新しいことではない。

1月のこよみ

元旦祭	1日 午前5時
よふき会初例会	2日 午前10時
本部お節会	5日~7日
女子青年初例会	6日 午前8時30分
教会長年頭連絡会	12日 午後1時30分
学生会初例会	12日 午前10時
春季大祭	13日 午前10時
青年会初例会	13日 午前10時
布教実修所	14日 午前9時30分
本愛こども会	14日 午前10時
むつみ会初例会	17日 午前10時
婦人会初例会	20日 午前10時
雅楽勉強会	22日 午前10時
本愛ようぼく錬成会	24日 午前10時30分
本部春季大祭	26日 午前11時30分
春季大祭総会	26日
こはる会初例会	27日 午前10時
婦人会創立記念の日	28日

はない。むしろ大教会の歴史は、その点に力を注ぎ続けてきた道のりだった。

大正12年8月、安藤治正・二代会長を芯に、出口要吉・山本鈴一の両氏が顧問を務め「本愛コードモ会」が発足した。本愛宣教所の設立からわずか9年。婦人会本愛支部、青年会本愛支会が発足に先駆けたものだった。

昭和3年6月のプログラムが記録に残っている。

- 一、はじめのコトバ
- 一、ちよんまげとまんぢう笠の由来
- 一、ハーモニカ独奏（海軍行進曲、外二曲）

どうしたら子供たちが喜んでくれるか。教会に親しんでくれるか――。現代ではおおよそ考えられない内容だが、そこには先人たちの苦心と努力の跡がにじんでいる。

教祖はお屋敷へ出入りする人々の子供に、常に優しく、親しげに接せられ、そ



「本愛コードモ会」発会式当日の初代会長家族

の親に信仰を子供へ伝えることの大切さを分かりやすく説かれた。

『稿本天理教祖伝逸話篇』に、梶本宗太郎氏の思い出話として次のような逸話がある。

教祖にお菓子を頂いて、神殿の方へでも行って、子供同志遊びながら食べて、なくなったら、又、教祖の所へ走って行って、手を出すと、下さる。食べてもうて、なくなると、又、走って行く。（中略）それでも、「今やったやないか。」というようなことは、一度も仰せにならぬ。又、うるさいから一度にやろう、というのでもない。食べるだけ、食べるだけずつ下さった。（193「早よう一人で」）

そのひながたの一端を、安藤正吉・初代会長は本愛の草創期に実践した。

いつでも、何度でも、分け隔てなく抱きとめられるをやの懐。その温もりが、栄養に満ちたふかふかの土壌のように、子供たちの信仰を育んでいく。初代会長様が本愛コードモ会というキャンバスに描いたのは、そんな未来だったのかもしれない。

理想ではなく喫緊の課題

「見て！ こんな大きいドラムがなかったよ」「トトロの映画みたい」



復興したこども会では毎回20人近くの子供たちが集まり、同じ時間を過ごす

昨年1月、本愛団では「こども会」の名称を復興させ、長く滞っていた例会活動を再興させた。11月には、少年会員約20人が集い、地域の公園で自然に親しんだ。

また、少年会活動の中核である「本愛鼓笛バンド」も、数年途絶えていた鼓笛オンパレードでの「金賞」を3年連続で受賞。練習に励む子供たちの目は、年々真剣さを増している。

共に遊び、学んだ経験が、近い将来の青年会員や女子青年、ひいてはおたすけ人を育成する土台になる。平成の元号が終わりを

告げる今年、日本の子供（15歳未満）の人口は1553万人。少年会本愛団が発足した昭和42年よりも、1千万人以上少ない。次代に信仰を伝える――。

それはもはや理想ではなく「喫緊の課題」だ。こども食堂の広がりから見えるのは、豊かな時代の中でも、悩みや苦しみを抱えた子供たちはすぐ近くに、ということだ。いまこそ、初代会長様が耕してくださった「ふかふかの土」に新たな種を蒔こう。どんな社会も、子供がいない場所に来はないのだから。

本愛こども会 ニコリンピック

本愛団は2月17日（日）、「本愛こども会ニコリンピック」を開催する。昨年と異なり、本年は2月の開催となる。

今年も、大教会近くの日吉小学校体育館を会場に、室内オリンピックを開催する予定。少年会では昨年同様、大勢の子供たちの参加を促している。詳細は少年会本愛団まで。

教理随想

言わん言えんの理を探る



教祖は、親神様の思召に沿わない心使いを「ほこり」にたとえてお説きくださり、心得違いを反省する拠り所として「八つのほこり」を教えてくださいました。その説き分けについて

は周知のことと思います。

と、ここでおふでさきには、次のおうたがあります。

このみちハをしいほしいとかハいと よくとこふまんこれがほこりや

(三一―96)

ほこりについてのお言葉はたくさんありますが、具体的にはほこりの種類につ

て言及されているのはこのおうただけです。つまり、「おしい、ほしい、かわい、よく、こうまん」の五つはおふでさきに明示されていますが、「にくい、うらみ、はらだち」の三つは記述がありません。これは何を意味するのでしょうか。

ほこりの心使いが八つと明記されたのは、明治三十一年に制定された別席台本が最初です。これはおさしづを伺って決められたもの

ですから、教祖が定めてくださったことに違いはありません。しかし、教祖が直接筆をとって記されたものとなると先にあげた五つだけ。こう考えると、おふでさきにある五種類のほこりと他の三つとは何か違いが

あるような気がします。

これはあくまでも個人的な悟りですが、「おしい、ほしい、かわい、よく、こうまん」の五つは、生きていく上で消し去ることができない心使いであり、他の三つは努力次第で失くすことができる性質のものといえるのではないのでしょうか。

日常生活で、埃や雑菌を周囲から無くすることは不可能です。というよりも人間は、埃や雑菌の中で暮らすからこそ免疫力が高まるともいえます。そう考えると、ほこりとしておふでさきに明記されている五つは、全くきれいに拭い去ることを考えるよりも、それを人のため、社会のために活かすように心がければよいので

はないかと悟れます。

たとえば「おしい」の心についていえば、出し惜しみや骨惜しみは良くないけれども、物を惜しむのもつたいないという心は非常に大切ですし、「ほしい」は「人からあれこれしてほしい」はほこりだけれども、「人にたすかってほしい」とか、「人に立派に成長してほしい」と願うのは決してほこりではありません。さらに「こうまん」については、自惚れてはいけませんが、自分に自信を持つことは重要な心の持ち方です。

すなわち心の置き所が自分中心か他者中心かによって、ほこりかどうかの分け目になるのであります。

■胸の掃除に励もう

一方、「にくい、うらみ、はらだち」の三つは、どうひねって考えても陽気で円満な関係に役立つ要素はありません。ですから一刻も

早くこの三つを消し去ることができるよう努力する必要があります。

元来、人間に病というものは無い。ただちよつとした心使いの誤りが身体に現れて、いわゆる病気の状態になる。これが天理教の病気に対する基本的な考え方です。そしてほこりの例えから発展させて、胸の掃除の大切さが説かれ、心が澄む、心が濁るといふ教えに続いていきます。

このみちハどんな事やとをもうかな せかい一れつむねのそふぢや

(十六―57)

ご恩報じの精神を胸に今年も様々な活動が展開されますが、外へ向かって教えを広める活動の裏側では、我が心のほこりを払い、胸の掃除を続ける努力が肝腎です。そこで本年は、「八つのほこり」の教理に焦点を当てて思案を深めていきたいと思います。

【第49回】

心の置き所と判断基準を
自分中心から他者中心へ

ご恩報じの思いを胸に おぢばへ 「報恩感謝別席団参」に大勢の帰参者

大教会では11月25日に「報恩感謝別席団参」を実施。親里に大勢の信者が帰り集った。

この日は、本愛以外にも多くの団参が行われた。晴天に恵まれたこともあって、親里は大きな賑わいを見せていた。本愛からの帰参者たちも、おぢばの秋の空気を楽しみながら、正午のおつとめに合わせて神

殿へと足を運んだ。また午後からは、初参拝者らを対象に「おはなし会」が行われた。

青年会ひのきしん隊
本愛分会から7名が入隊

青年会本愛分会では、12月1日から24日までの期間、「おやさとふしん青年会ひのきしん隊第861回隊」に4名が入隊した。また、本愛分会としては初参加となる「3日隊」には7日から3名が入隊。隊員たちは一手一つに勇んでひのきしんに励んだ。

潤様、山田穂音様とご結婚

大教会教祖殿で厳かに

大教会長の四男・安藤潤様は、このたび紀陽大教会部属・紀野分教会長・山田才^{はじめ}氏の次女・穂音^{ほね}様との縁談が相整い、大教会役員・安藤正二郎夫

妻の媒酌により、去る12月16日午前10時半より、佐藤正成役員主礼のもと、大教会教祖殿において、夫婦固めの盃をかわし華燭の典を挙げた。

■婦人会本愛支部

12月13日の月次祭典終了後、大教会長より、婦人会本愛支部委員の辞令が交付された。

- 委員 細川智恵子(本滋賀)
 - 山本 時子(本桑名)
 - 青木奈美子(本枇杷島)
 - 大橋 直子(本愛中)
 - 安藤美恵子(本則武)
 - 若杉二美代(本實愛)
 - 塚原 明美(本千原)
 - 和光 春美(本御重)
 - 大倉 喜香(本一心)
 - 津田かずみ(本 宏)
 - 門田 和美(本理愛)
 - 板山はるゑ(本濱松)
- 以上12名

◆各会初例会案内◆

女子青年―6日
午前8時30分
大教会集合後、本部お節会に合わせて初団参を行う。

学生会―12日・午前10時
初例会では、おつとめ

の後、3月に控えた春の学生おぢばがえりに向けてのミーティングを行う。

青年会―13日・午前10時

大教会春季大祭に参拝し、その後祭典ひのきしんをつとめる。

少年会―14日・午前10時

初例会は、本愛こども会を行う。科学実験の体験を予定。

むつみ会―17日・午前10時

初例会では、おつとめよろづよ八首をつとめた後、大教会長より挨拶を頂く。その後、会食が予定されている。

婦人会―20日・午前10時

初例会では、おつとめ十二下りてをどりをつとめた後、大教会長より挨拶を頂く。その後は会食が行われる。

こはる会―27日・午前10時

初例会では、おつとめの後、ひのきしんをつとめる。

ハーフタイム

昨年初めて3千万人を超えた訪日外国人。その約3割を占める中国人がいま注目する企業がある▼東莞田中光学科技。数年前まで同社の製品には欠陥が多発していた。社長の石野千尋さん(高篠分教会教人)は、種々手を尽くしたが社員は不満ばかり。「藁にもすがる思いで」始めたのがトイレ掃除だった▼面子を重んじる中国では、トップが掃除するのは非難的。それでも毎朝便器を磨き続けた。2年が経つ頃には社員全員が雑巾を手にするようになり、欠陥が激減。年間2千人が見学に訪れる。「自分の心を磨くにはひのきしんしかない。国が違っても教祖の教えは必ず伝わる」▼今後日本でも海外の人と接する機会は増えるだろう。言葉は通じなくても「背中」から教えは伝わる。

教人登録者

(平成30年10月26日付)
本昭和 中島真実
以上1名

11月の初席者

直轄 稲垣 順也
本築(本東海) 岡田 真一
本晃 石川 操
本心

11月の中席者数

(12月20日提出分まで)
本煥 1 本海部 1
本心 6 本愛岳 6
本道橋 2 以上16名

サンチャゴ モレナ ブノ
本心(本蟹江) 福岡 涼風
本耕(本耕愛) 伊勢谷和男
" " 伊勢谷朋美
" " 家田 有貴
本道橋 藤本 諒
" 望月 康太
" 相場 晃
本濱松

建築模様替及
神殿増改築並
内部改造奉告祭

本誠愛分教会(中村誠
会長)では、12月8日午
後5時30分より、大教会
長祭主のもと御目標様鎮
座祭を厳かに執行。

翌9日午前10時30分よ
り、大教会長をはじめ、
上級本心分教会長夫妻、
兄弟教会長ら多数の来賓
を迎え、建築模様替及神
殿増改築並内部改造奉告
祭が賑やかに執り行われ
た。

本則武 松下友一郎
" 松下 麻衣
本一宮(本尾州) 山口 晃平
本中村(本豊國) 鈴木 結治
本海部(本海門) 石垣 龍一
本正義 柏木真由美
本清明 王 赫
本愛岳 米倉 海斗
本美郷 高村沙耶香
以上20名

本愛勢分教会初代会長

筑紫正子之霊の二十年祭
11月11日午前11時より、

本愛勢分教会初代会長・筑
紫正子之霊の二十年祭が、
世話人・山神茂彦役員を祭
主として同分教会で行われ
た。

本鈴鹿分教会三代会長

吉田清之霊の一年祭
12月9日午前11時より、
本鈴鹿分教会三代会長・吉
田清之霊の一年祭が、世話
人・和光重男役員を祭主と
して同分教会で行われた。

山下齋子さん(本清愛分教
会三代会長)

11月26日に出直された。
享年92歳。告別式は11月28
日午後1時より、佐藤幸一
郎・本築分教会長を齋主と
して執り行われた。

永田光男氏(本心徳分教会
初代会長)

12月18日に出直された。
享年82歳。告別式は12月20
日午前10時より、長江邦彦・
本心分教会長を齋主として
執り行われた。

大教会日誌

平成30年11月25日~平成30年12月24日

11月

25日 報恩感謝別席団参
26日 本部月次祭◇常任役員会議
30日 役員会議

12月

1日 入社祭
祭主・大教会長夫人 扨者・石川文彦、山神茂彦
指図方・板山公司 賛者・坂倉敏男、杉下和平
◇おたすけ講話—細川 明
◇教会長連絡会
2日 よふき会例会
12日 常任役員会議
青年会例会
13日 月次祭
祭主・大教会長 扨者・筑紫英一、中島功雄

指図方・佐藤幸夫 賛者・出口邦郎、久保真樹
◇祭典講話—板山真一
◇大教会長挨拶
14日 布教実修所
17日 こども食堂MOGU 参加者46人
20日 婦人会例会
21日 おはなし会
22日 学生会例会(23日まで)
23日 修養科志願者面接(於・大教会)
本愛こども会
むつみ会例会
女子青年例会
こはる会例会
雅楽勉強会
24日 本愛ようぼく錬成会